

平成29年度

社会福祉法人あゆみの会

事業報告書

社会福祉法人あゆみの会

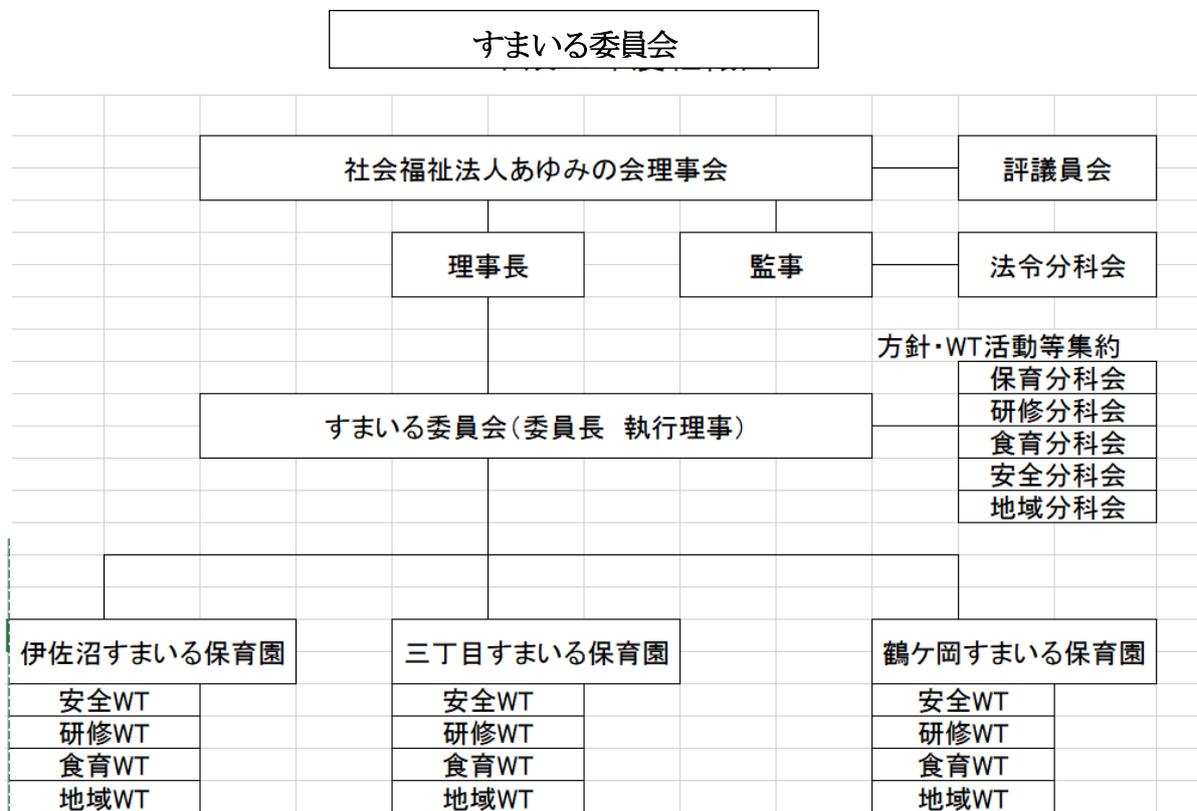
1. 総論

(1) 保育の質の向上のため、すまいる委員会を設置、分科会活動を開始しました

本年度は、法人として各園の保育や運営を統括する「すまいる委員会」を設置し、組織的な運営を進めてまいりました。

1) すまいる委員会

姉妹園と合わせ、保育士、看護師、栄養士・調理師・保育補助を合わせ 100 人近い職員がいます。本年度より、本部に「すまいる委員会」を設置し、各園からの委員からなる 6 つの分科会（「保育」「安全」「食育」「研修」「保護者・地域支援」「法令（人権擁護）」）を設け、事例検討、情報交換や専門家を招き知見をお借りしたり、勉強会を重ね、保育の質の向上を図りました。



イ. 保育分科会

保育所保育指針に基づく子ども主体の保育を進めるために、汐見稔幸先生が主宰する臨床育児研究会や保育環境研究所ギビングツリー等の勉強会で保育を学んでいます。

私立保育園連盟や日本保育協会、社会福祉協議会等に参加し、主催する保育研修等に積極的に職員を派遣し、常に新しい情報を取り入れています。

保育コンパニオンによる巡回訪問

法人内に専門的な知見を持つ「保育コンパニオン」を配置しています。各園を巡回訪問し、よりよい養護や教育のために、環境設定や保育者の関わり方等について、保育者と共に改善を図っています。平成29年度はモンテッソーリ教育の環境を各園に導入しました。各園児の発達の敏感期の把握に努めました。

平成30年度施行の保育指針を踏まえた保育の実施

*全体的な計画等のフォーマット作成

新指針より導入された「全体的な計画」「指導計画」「食育計画」「保健計画」のフォーマットを作成、「全体的な計画」に関しては、保護者の方からの意見を求め、保育目標を策定した。

*キラキラシートの作成と実施

新指針を踏まえ、発達の五領域や育てたい10の姿と「育てたい資質・能力」を重ね合わせた「キラキラシート」を導入しました。キラキラシートの導入により、子どもたちの発達の様子や、保育における発達援助のポイントが明確になり、指導計画を作成する際も発達の領域や10の姿を意識しながら計画を立てることが出来ました。今年度の成果を、来年度より実施する保護者の方への発達の様子をお伝えするポートフォリオの作成へとつなげていきます。

新宿せいが保育園保育研修（臥竜塾）への職員派遣

新宿せいが保育園で毎月行われる、文字・数・科学への関心を高める教具や活動についての実技研修「臥竜塾」へ各園より職員を派遣し、情報収集を行いました。教具を作成し、各園で保育に活かすとともに、情報共有を図り、保育の質の向上に努めてまいります。

他園との交流

保育研究会の加盟園との交流や合同研修、里山での自然の中でルネ教育を行っている狭山市の「けやのもり学園」等、子ども主体の見守る保育を提唱された「新宿せいが子ども園」や、我が国の乳幼児教育で、長い歴史を持つ「お茶の水附属幼稚園」等、素晴らしい実践を重ねている園を積極的に訪れ、保育の内容や考え方、進め方等について学びました。

ロ. 安全分科会

子どもたちの安心安全を守るため、研修等に積極的に参加し学びを深めるとともに、厚生労働省から示された安全ガイドラインや市区町村より公表された事故報告書等を分析し、各園の安心安全の向上に努めています。

また各園の看護師による「看護部会」では感染症防止や緊急時の対応について、情報交換を行い、各園の看護体制や衛生環境の向上に努めています。

本年は「園から保護者の方への連絡の目安」を見直し、清掃や玩具の「衛生マニュアル」を作成しました。また、SIDSやアレルギー対応、安全点検等について各園の状況を確認し、統一化を図りました。

ハ. 食育分科会

食育は、子どもたちの発達を促す要素がたくさんあります。料理をしたり、畑で野菜を育てたりすることで、気付くことや、工夫をしなければいけないこと、料理を作ったり作物を収穫する達成感など、生きる力を自然に育んでくれます。また、自分の健康や身体のしくみ、買い物に行ったり、残飯に関心を持つなど、社会や環

境問題等への関心を高めたり、科学的な思考も育ててくれます。食育を子どもたちの「生きる力」を育てる大切な機会にしていきます。本年度は各園の事例を持ち寄るとともに、外部研修や園見学から得た情報を共有するとともに、鶴ヶ岡すまいる保育園では、子どもによる、残食調査を継続的に行いました。伊佐沼すまいる保育園では、畑で収穫された作物のクッキングやお店屋さんを開き、保護者の方へ販売を行いました。また、伊佐沼すまいる保育園、鶴ヶ岡すまいる保育園では、園庭に畑を設置し、子どもたちが作物を育てました。

二. 保護者・地域分科会

お子さまを育てていく上で、ご家庭と保育園との連携はとても大切です。保護者・地域分科会では、保護者の皆様へ日頃の保育の内容や様子、考え方などをわかりやすくお伝えするツールや方法を考えていきます。平成29年度はスマホアプリ、キッズリーを導入し保育の様子をお伝えしました。また、地域との連携や保護者の皆様のご意見等をお伺いし、コミュニケーションを深めて参ります。

地域活動については、各園で地域の方へ行事への参加を促し、ハロウィンでは地域の方より広範囲の協力を得ることができました。また、三丁目すまいる保育園で毎朝、清掃活動を行ったり、伊佐沼すまいる保育園で民生委員の方より地域の福祉に関する状況をお伺いし連携を図るとともに、鶴ヶ岡すまいる保育園では、地域の方の保育ボランティア受け入れや高齢者施設との関係を深める等、地域への貢献を図って参りました。

また、保護者の方からのアンケートを保育に活かしていくため、スマホから簡単にアンケートの回答ができるよう、キッズリーと連動しグーグルのアンケート集計機能を活用しました。

ホ. 研修分科会

研修は、保育を質を高めていく上でとても重要です。各園で毎月園内研修を行うとともに、年2回、姉妹園と合同研修があります。研修計画を立て各保育者のキャリアアップをしっかりと進めています。また、加入している保育研究会の研修や外部研修で積極的に学んでいます。一定のキャリアを積んだ保育者に対しては海外研修の機会も設けています。

本年度は、三園の合同研修会の企画等を行うとともに、4名の外部講師を招き、講義をお願いする等、研修の質の向上を図りました。また、キャリアアップ研修も開始され、処遇改善との連動が制度化されるなど、職員の資質の向上は大きな課題です。平成30年度は専門家の知見も交えながら、研修計画を組み立てていきます。

へ. 法令分科会（人権擁護委員会）

原則、行政監査が実施されない各施設に対し、年1回の内部監査を実施し、各園で法令やガイダンス、マニュアル等に則った運営がなされているかを確認しています。また、分科会には「人権擁護委員会」があり、お子さまや保育者の人権を大切にするため相談窓口を設置したり、研修や啓発活動を行っています。本年度は、三丁目すまいる保育園、鶴ヶ岡すまいる保育園の内部監査を実施する共に、各園に人権擁護委員を任命し、保育所内での人権意識の向上を図りました。保護者の虐待に対する対応を行う「虐待防止マニュアル」に加え「園児人権擁護マニュアル」を作成するとともに、職員間でのセクハラ・パワハラ・マタハラ等の人権侵害に対し、注意を喚起するため、標語を募集し掲示を行う等、啓発活動を行いました。またセクハラ、パワハラ、マタハラについては、平成30年度より、就業規則を改正し懲罰規程を設ける等、法人としてより一層、組織的に取り組んでいくこととします。

分科会	場所	開催状況
保育分科会	三丁目	6/19、8/24、10/24、2/27
安全分科会	三丁目	5/30、6/14、7/31、9/21、10/26、12/12、1/18、2/19
食育分科会	三丁目	7/25、9/12、10/30、12/18、2/22

研修分科会	鶴ヶ岡	6/24、2/24
地域・保護者分科会	三丁目	6/14、7/19、8/2、8/8、9/6、9/14、9/20、12/26、2/7、2/20
法令分科会	三丁目	12/14、2/21、2/26

(2) 本 部

平成29年12月に評議員1名の就任が決まりました。これにより、評議員は6名より7名になりました。本年度は、「福祉充実残額」は発生しておりませんが、引き続き、職員の福利厚生、処遇改善の充実の他、社会貢献のために新たな福祉事業に取り組んで参りたいと考えています。

内部監査を充実するために法令分科会により、各分科会で策定された内部規定やチェックリスト、行政の指導監査項目について、三丁目すまいる保育園、鶴ヶ岡すまいる保育園の内部監査を実施しました(添付資料1)。また、保育者の処遇改善等に対応するため、顧問弁護士の指導の下、就業規則、給与規則を改正しました。

1) 理事会開催日時

第一回理事会 平成29年5月2日

第二回理事会 平成29年6月17日

第三回理事会 平成29年12月2日

第四回理事会 平成30年3月24日

2) 定期評議員会

平成29年6月17日

3) 評議員選任解任委員会

平成29年12月26日

以 上

平成29年度 伊佐沼すまいる保育園 事業報告書

1. 平成29年度 総括

本年は、平成30年度から新保育所保育指針が施行されることを踏まえ、新指針を保育実践に取り入れていくこととした。具体的には、新指針のテーマである「非認知的能力」を育むため、指導案のフォーマットを「気付く」「工夫する」「頑張る」という「育てたい資質・能力」を横軸に、発達の五領域や新指針に盛り込まれた幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を縦軸に置いたマトリックス（きらきらしート）を導入し、一人一人の子どもの様子を記録し新指針に基づく、子どもの記録について経験を深め、児童票の作成を行うとともに、同じフォーマットを使用し、各指導案を作成した。

その結果、保育のねらいや意図を職員全員が認識しやすくなるとともに、保護者への説明が、指針に基づき行われることとなり、信頼を深めることにつながった。また、次年度、保護者に対しポートフォリオの配布を予定しているが、ポートフォリオを作成する訓練が出来た。

すまいる委員会での分科会活動を通じ、姉妹園との交流を深めた。2月には、伊佐沼すまいる保育園宙組園児が職員と共に、鶴ヶ岡すまいる保育園を訪問、クッキング活動や園庭交流を行った。

保護者に対する情報発信にスマホアプリ「キッズリー」を導入したことにより、保育を保護者に伝えやすくなり、保護者との関係が深まった。また、スマホを使用したアンケートなども取りやすくなった。

地域との関係については、自治会より交通安全に関する標識の設置や歩行者用のライン等、園児のために整備をしていただくことができた。

2. 児童利用状況

月別利用児童受託状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
1歳児	12	12	15	16	16	16	16	16	16	16	16	6
2歳児	18	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17
3歳児	11	11	11	11	11	11	11	11	10	9	9	9
4歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
5歳児	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6

(2) 各種ワーキングチームを設置し、職員主体での運営

研修 WT	職員の資質向上に向けて組織的、かつ体系的な研修計画に基づいて進める
安全 WT	園内外の環境整備および保全、安全・防災に関する意識の強化、子どもと保護者への情報発信と学び合いに務める
食育 WT	健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培えるよう、食育計画の作成や食育環境、栄養管理などに取り組む
地域 WT	
給食委員会	給食業務を外部委託(シダックス)しているため、保育園との連携を図る。

6. 保育・処遇

(1) 保育・保護者面接および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none">・保育理念や保育目標などを意識し、子ども中心の保育とは何かを職員全体で考える中で、それに伴った環境作りを心掛けた。・どきどきシートを導入し、日々の計画に発達援助の視点を盛り込んだ。・屋外での調理活動等、食育活動の幅を広げた。・干し柿を作ったり、野菜を園内で保護者の方に販売したり、非認知能力を育むことができた。・保護者との信頼関係を気付くにあたり、日常のコミュニケーションを大切にしました。保育の中にも積極的に入り、子どもの様子を身近に伝えていくことから信頼関係の構築に努めた。
保護者面接および発達相談	<ul style="list-style-type: none">・支援を要する可能性のあるお子さまについて、保護者の方と連携をすることが出来た。療育に通い、ST・OT等の訓練を含め、園での保育や家庭での声かけを変えることにより、お子さまは1年間で劇的に変化をとげた。
園児の保護者への支援および意見要望への対応	行事や保育参加の感想も非常に好意的なものが多く、とても良好な関係を築いている。

(2) 年間行事の振り返り

昨年度以上に子ども中心の行事作りを心掛けた。それにより、行事が特別な物ではなく日常の延長であることや一人ひとりの職員が得意なことを楽しく発揮できる場となっている。

保護者会との連携もすすみ、とても一体感のある温かい行事となった。

(3) 給食・食育運営状況

・個々の発達や生活リズムなどに合わせて和やかに食事ができるよう、個々の気持ちを尊重した関わりを心掛ける。一人ひとりのペースに合った食事が採れるようになった。

・畑で野菜を収穫し、園庭で調理をしたり、保存食を作ったり、食べきれないもの保護者に販売し、そのお金で畑の肥料を買ったり、川越の菓子や横丁でお菓子を買いに行ったり、豊かな体験ができた。

(4) 保健に関する実施結果

園児健康診断	年2回実施(6月2日・11月9日)
歯科検診	年1回実施(6月29日)
保健だより	毎月児童数配
職員健康診断	年1回
職員検便	毎月、0歳児担当、厨房担当実施
流行した感染症	ヘルパンギーナ、手足口病、胃腸炎、インフルエンザ等の、感染症に罹る子どもいたが、大流行はなかった。インフルエンザ(A型)も12月から3月までの4ヶ月で8人の欠席だった。
救急対応	なし
その他、保険に関する取組	11月18日 普通救命救急講習受講 8月15日、16日と3月30日、31日に厨房設備の害虫駆除実施 希望する職員にインフルエンザの予防接種

(5) 安全対策

ア 防災対策

1. 避難訓練等実施状況

実施日	訓練内容	消防署立会	消防署届出	その他
4月17日(月)	避難・消化	無	無	
5月25日(月)	避難・消化	無	無	
6月22日(木)	避難・消化・通報	有	有	水消火器訓練
7月14日(金)	避難・消化	無	無	
8月14日(金)	避難・消化	無	無	
9月15日(金)	避難・消化	無	無	
10月20日(金)	避難・消化・通報 広域避難場所避難	有	有	水消火器訓練
11月21日(火)	避難・消化	無	無	
12月15日(金)	避難・消化	無	無	
1月13日(金)	避難・消化	無	無	
2月19日(月)	避難・消化	無	無	
3月16日(木)	避難・消化	無	無	

2. 非常災害備品の設置

- ・賞味期間切れの非常食入れ替え、非常用釜の購入

3. 侵入者、不審者訓練

8月23日(水)に園内にて実施

(不審者に対するの対応、及び外部への通報)

4. 実施した環境整備の状況

- ・いのちのリストによる日々の環境整備（安全クッションの取り付けなど）
- ・すくすくシート、どきどきシートによる各クラスの環境整備（静と動、こどもの動線の整備、遊具作りなど）

(6) 地域との関わり

ア 子育て支援

- ・夕涼み会、ハロウィン、ウィンターフェスタ、節分の行事を開催するにあたり、地域に手紙を配布し、各行事に複数名の地域の方の参加がありました。特にハロウィンでは、組の参加があり、子どもたちの様子を温かく見守っていただきました。

7. 危機管理

- ・毎月安全 WT によるヒヤリハットの分析（濃淡管理）を行った。リスクの高い事例に関しては、具体的な対策が取れているかどうか、不十分であった時は対策を取るところまで明確に行う。また、他園で起こった事故事例などを日々確認し、昼礼での注意喚起や研修での事例検討や自園での対応などを話し合う機会を作った。
- ・玄関のオートロック機能を実用化し、日中（9：30～15：30）まではインターホンによる対応とする。

1. 職員研修(園内研修)

	実施日	研修内容	分類
1	4月22日	・電話対応 ・ヒヤリハットまとめ ・新保育指針について ・チャイルドビジョン ・環境整備 他	危・発・保
2	5月27日	・安全について(蜂、熱中症、意識チェックリスト) ・保護者アンケートの分析 ・子どもの脳について ・懇談会準備 ・環境整備 他	遊・危・発・保
3	6月24日	《三園合同研修》 ・浅沼恵先生講演:自分らしい子育て ・村上美奈子先生講演 ・プール緊急対応について 他	発・遊・危保
4	7月8日	・安全について(毒草、虫・デング熱・ヒアリ) ・研修報告 ・夕涼み会準備 他	発・遊・危保・食
5	9月2日	《三園合同研修》 ・新保育指針について ・敏感期について ・乳児保育研修会より ・きらきらシートについて ・ミニマニュアルについて 他	発・遊・危保・食
6	9月16日	・10月月案 ・研修報告 ・人権について ・キッズリー、るくみーについて ・ふれあい会準備 他	危・発・遊
7	9月30日	・触れ合い遊び会・反省会	発・遊
8	10月28日	・ドキドキデー(年長担当) 運動公園、サツマイモ堀り	発・遊
		・おもちゃ作り ・敏感期を意識した振り返り ・韓国研修報告 ・11月月案他 他	
9	10月28日	・環境整備 ・触れ合い会準備 ・見守るリストについて 他	遊・危・発
10	11月18日	・普通救命講習 ・安全について(けがの対策・インフルエンザについて) ・研修報告 ・12月月案 他	危・感・保・発
11	12月2日	・ウインターフェスタ準備 ・絵本作家 小風 さち氏 講演会 他	発・遊
12	12月9日	・ウインターフェスタ ・反省会	発・遊
13	12月16日	・安全より(事故について) ・人権について ・1月月案 ・年末集中環境整備	発・遊・保危
14	1月27日	・全体的な計画について ・保育者用虐待防止マニュアル ・人権について ・研修報告(川和保育園・臥竜塾) ・2月3月月案作成 他	発・遊・危・虐
15	2月24日	《三園合同研修》 ・全体的な計画について ・すくすく、のびのび、きらきらシート ・就業規則について ・ポートフォリオについて ・分科会報告 他	発・保・食危
16	3月9日	・卒園式 ・反省会 ・年間計画話し合い	発・保・遊
17	3月31日	・新年度準備 検討中 他	危・虐・発

- ・全体会(月案反省等): 毎月1回
- ・にこにこ会・わくわく会: 毎月1回 にこわく会: 適宜
- ・ワーキンググループ(研修・安全・食育・地域): 各毎月1回
- ・デイリー研修(ヒヤリハットの確認、SIDS確認等): 毎日

分類【危: 危機管理、ヒヤリハット、安全 発: 子どもの発達(養護・教育)、発達支援 食: 食育
虐: 虐待 保: 保護者支援 感: 感染症予防 遊: 遊び、わらべうた等】

外部研修

No.	月日	研修名	分類	場所	参加人数
1	4月11日	新保育指針について	発	新渡戸文化短期大学	1
2	4月25日	臥竜塾セミナー	発・遊	新宿せいが子ども園	1
3	5月9日	汐見先生 臨床育児研究会	発	新渡戸短大	1
4	5月18日	今後の幼児教育とは 園見学	発	東村山むさしの認定こども園	1
5	5月20日	植松勉氏講演会	他	行田市教育文化センターみらい	3
6	5月23日	臥竜塾セミナー「数」	発・遊	新宿せいが子ども園	1
7	5月25日	絵本の力を学びに生かす	発	ウエスタ川越	4
8	6月2・3日	自然体験活動 指導者養成講座	発・遊	けやのもり学園	2
9	6月5日	社会福祉研修「人材育成」	他	彩の国すこやかプラザ	1
10	6月10、11日	エデュカーレ全国読者交流会in清里	発・遊・他	清里清泉寮	2
11	6月13日	臨床育児・保育研究会	発	新渡戸短大	1
12	6月22日	気になる子どもたちの理解と支援を学ぶ	発	ウエスタ川越	4
13	6月29日	新3法令改定のポイントについて	発	南大塚ホール	2
14	7月4日	保育士という仕事をとことん楽しもう	他	ウエスタ川越	1
15	7月10日	「食べる機能にあった食事の進め方」	発・食	ウエスタ川越	4
16	7月25日	臥竜塾セミナー	発・遊	新宿せいが子ども園	1
17	7月27日	私立保育園・東京家政大学、同短期大学教員との懇談会	他	東京家政大学	1
18	8月2日	子どものよりよい成長を考える研修会	発	川越市教育センター	1
19	8月4日	フレールエグゼクティブセミナー	発・保	品川インターシティーホール	2
20	8月4日	初任者キャリアパス研修	発	熊谷商工会議所	1
21	8月6日	全国保育団体合同研修会	発・保	聖学院大学 さいたまスーパーアリーナ	4
22	8月9日	児童虐待防止サポーター研修	虐	ウエスタ川越	1
23	8月21,22日	2017 GTサミット	発・遊	せいがの森保育園 ガーデンシティ竹橋	1
24	8月22日	発達支援サポーター育成研修1	発	ウエスタ川越	2
25	8月23～24日	乳児保育担当者研修会	発・遊	大崎ブライトコアホール	1
26	8月30日	発達支援サポーター育成研修2	発	埼玉県発達障害総合支援センター	2
27	9月4、5日	GT研修、園見学	発・遊	ガーデンシティ竹橋 新宿こだま保育園	1
28	9月12日	臨床育児研究会	発	新渡戸稲造短期大学	1
29	9月13日	発達支援サポーター育成研修3	発	埼玉県発達障害総合支援センター	1
30	9月14日	初任者キャリアパス研修	キ	熊谷商工会議所	1
31	9月22日	保育士養成校と私立保育園園長との情報交換会	他	さいたま市文化センター	1
32	9月22、29日	初任者キャリアアップ	キ	ウエスタ川越	1
33	9月22、23日	GTリーダー研修	発	新宿せいが子ども園	1

No.	月日	研修名	内容	場所	参加人数
34	9月26、27日	園庭園舎の設計、環境作り	発・遊	あきたチャイルド園 港北チャイルド園	1
35	9月28日	乳幼児期におけるアタッチメント非認知的な心の発達	発	ウエスタ川越	3
36	10月10日	臨床育児研究会(お茶の水認定こども園について)	発	新渡戸短期大学	1
37	10月19日	今後の幼児期養育とは	発	ウエスタ川越	5
38	10月22～26日	GT韓国保育園研修(視察・勉強会)	発・遊・他	韓国ソウル特別区 私立区立保育園	1
39	10月23日	発達障害児のための感覚運動遊び支援実践研修	発・遊	埼玉県発達障害総合支援センター	1
40	10月31日	保育指針改定のポイント・10の姿をどうとらえるか	発	さいたま市文化センター	2
41	11月3、4日	自然、森林環境について学ぶ、	発・遊	けやのもり自然塾	1
42	11月10日	GT関東大会	発	大久保わかかき子ども園他 芳樹女学院	3
43	11月16日	第61回全国保育研究大会	発	神戸ポートピアホテル	1
44	11月28日	子どもが幸せに育つために	発・保	お茶の水女子大学	1
45	12月2日	絵本の力	発	川越西文化会館	12
46	12月6日	これからの保育の在り方 倉橋惣三の保育論から	発	滝野川会館	3
47	12月19日	臥竜塾セミナー「文字」	発	新宿せいが子ども園	1
48	12月22、26日	キャリアアップ研修	キ	日本社会事業大学	1
49	1月4、5日	キャリアアップ研修	キ	日本社会事業大学	1
50	1月21日	ぐうたら村保育セミナー	発・遊	聖心女子大学	1
51	1月26日	子どもの発達を促す保育環境について	発・遊	川和保育園	1
52	1月30日	深刻事故を起こさない工夫、園内コミュニケーションのルール、保護者コミュニケーションの方法	危	大宮ソニックシティ	1
53	1月31日 2月3日	キャリアアップ研修	キ	秋草学園短期大学 日本社会事業大学	1
54	2月6、9日	キャリアアップ研修	キ	秋草学園短期大学	1
55	2月7日	発達支援サポーター育成研修3	発	埼玉県発達障害総合支援センター	1
56	2月11日	日本保育学会関東地区研究集会	発	お茶の水女子大学	3
57	2月13、16日	キャリアアップ研修	キ	日本社会事業大学	1
58	2月14日	臨床育児研究会埼玉大会	発	埼玉市民会館	2
59	2月17日	第15回現職保育研修会	発・遊	秋草学園短期大学	1
60	2月19日	保護者支援研修	保	彩の国健やかプラザ	1
61	2月20日	働きやすい職場づくりのための人材育成	他	さいたま共済会館	1
62	2月21日	埼玉県保育士会保育所保育指針改定のポイント	発	浦和コルソホール	1
63	2月21～23日	保護支援・子育て支援研修会	保・虐	大崎ブライトコアホール	1
64	3月8日	こどもの森研修	発・遊	認定こども園こどもの森	1

分類【危:危機管理、ヒヤリハット 発:子どもの発達(養護・教育)・発達支援 食:食育
虐:虐待防止 感:感染症予防 遊:遊び、わらべ歌等 キ:キャリアアップ 他:その他】

8. 苦情解決のうち報告すべき事項

・ご意見BOXや口頭、連絡帳などで寄せられた全ての意見、要望、苦情については、原則「苦情対応体制」に従い、掲示などでお知らせし解決を行いました。本年度については苦情はありませんでした。

平成29年度 三丁目すまいる保育園 事業報告書

1. 平成29年度 総括

平成29年度で開園3年目を迎えた。今年度はすまいる委員会が設立され、保育分科会、安全分科会、研修分科会、地域分科会、法令分科会それぞれの活動を中心に、様々な見直しが行われた。その中で、伊佐沼、鶴ヶ岡、三丁目の3園が基本的には同じ方法で統一して保育を進められるようになり、戸惑った時などは常に分科会を通して考えられるようになった。

三丁目としても、「自然の不思議」という保育テーマのもと、住宅街の中にある保育園だからこそ、道端の草花や石、散歩道で感じる光や風などちょっとした自然に対して意図的に働きかけられるようにした。また、子どもたちの様子を写真で出し、そこから見られる発達をドキュメンテーションとして日々発信することを心掛けた。はじめは時間もかかり、どのような発信をしたらよいのか戸惑う保育士も多かったようだ。しかし、園内研修や全体会議などでそれらを振り返る機会を作り、皆で意見を出し合うことによって少しずつ子どもたちの発達を文字にして伝えることにも慣れ、また、保護者からも「楽しみにしている」「わかりやすい」などといった好意的な意見を多く聞くようになり、保育者の意欲にもつながっていったようだ。

そのような中、法人としてもスマートフォンのアプリ、「キッズリー」を導入することになり、日々携帯電話を使って子どもたちの様子を発信するようになる。ドキュメンテーションにより毎日発信することをしてきた為、導入において職員は前向きに取り組んでくれた。保護者からも「お休みの時、ずっと見ていました」などより多くのご意見を頂けるようになっている。保護者登録としては9割の登録数となっている。残りの保護者の方へのご理解をどのように促していくのかが課題となっている。

また、園長としてもキッズリーの「園からのお知らせ」を利用し、子どもたちの様子から感じたことや研修等で聞いてきたことなどを発信している。保護者の方からも「毎日楽しみにしている」といったご意見も頂くことが出来た。今後も、日々忙しく子育てや仕事をしている保護者の方が、安心して子育てしていけるよう、そして、少しでも保育園のことを理解して頂けるよう継続していきたい。

1月よりきらきらシートとのびのびシートを取り入れ、子ども一人ひとりの発達や興味、関心により寄り添った保育が展開できるようにする。日々の子どもの姿を少しの時間でも共有することが出来るようになったことで、環境設定や働きかけがより意図的なものへと変わってきているようだ。今後も計画を立て、実行し、それらを振り返って見直す（PDCA サイクル）ことをクラス間で日々行っていけるようにしたい。

安全面では、安全分科会を中心に、様々なマニュアルの見直しが図られた。特に、午睡中の見守りの方法について丁寧にマニュアルを作り直したことで、誰が保育していても同じように見守れるようになった。

玩具消毒については、マニュアル化された後も日々の業務の中で全てやり切れていなかったが、再度やり方などを見直したことで改善されている。

地域との関わりでは、昨年度に引き続き、毎月の地域清掃に有志で参加した。また、地域のお祭りの会場準備や片づけの手伝い、園行事へのお誘いなども行った。行事に複数の方が遊びにきてくれたり、ハロウィンでも新たに参加してくれた方も見られた。

以前から保育園の騒音や臭気についてご意見を頂いていた為、5月に厨房ダクトをさらに南側に伸ばした。それ以降は、騒音や臭気についてのご意見はなくなっている。

日々遊ばせてもらっている三丁目公園にて、子どもの声に対するご意見を頂く。それに伴って、全員が同じ公園で遊ばないことや保育者の声も大きくなりすぎないように配慮する。

今後も、様々な場面で地域への関わりを持てるよう心がけ、関係性を向上させていきたい。

2. 児童利用状況

月別利用児童受託状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	6	8	10	10	13	15	15	15	15	15	15	15
1歳児	23	23	24	24	24	24	24	23	23	23	23	23
2歳児	22	23	24	24	24	24	23	23	23	23	23	23

延長保育利用状況(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用総人数	189	224	236	251	231	248	237	272	270	225	221	

3. 保育園開所時間

		保育標準時間	保育短時間	備考
早朝延長	7:00~8:00	最大 11 時間	有 料	
通常保育	8:00~16:00		最大 8 時間	
夕方延長	16:00~18:00		有 料	
有料延長	18:00~19:00	有 料		土曜日は無し

4. 職員

3月1日時点での在籍内訳

常勤職員	8人	保育士	6人	看護師	0人	栄養士	1人	事務	1人
パート職員	30人	保育士	24人	看護師	2人	栄養士	1人	事務	1人
調理員	2人	嘱託医	2人						

職員在籍状況(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在籍総数	38	37	39	39	39	39	38	40	40	38	38	38	463
うち施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
うち保育士正規	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	69
うち保育士パート	21	21	23	23	23	23	22	23	23	22	22	22	268
うち看護師	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	25
うち調理員	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
うち用務	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち事務	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
うち産休育休	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち保育補助	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	17

5. 運営報告

(1) 開催した施設内会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会議	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
わくわく会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
にこにこ会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
リーダー会	1	1	1	1	0	2	2	1	1	1	0	0
フリー会	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0

(2) 各種ワーキングチームを設置し、職員主体での運営

研修 WT	職員の資質向上に向けて組織的、かつ体系的な研修計画に基づいて進める
安全 WT	園内外の環境整備および保全、安全・防災に関する意識の強化、子どもと保護者への情報発信と学び合いに務める
食育 WT	健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培えるよう、食育計画の作成や食育環境、栄養管理などに取り組む
環境 WT	子ども自ら環境に関わり、活動が豊かに展開されるよう様々な環境を整えていく

6. 保育・処遇

(1) 保育・保護者面接および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none">・日中の保育だけでなく遅番のヘルプなど、積極的に子どもの中に入ること で、子どもたちの様子から見えるエピソードなどを共有し、環境整備などの 相談に乗れるよう努めた。・職員とは自己評価を基に定期的に個別面談を行った。
保護者面談および発達相談	<ul style="list-style-type: none">・発達相談として数回面談を行う。保護者の理解のもと、保育園と家庭で一 緒に出来ることを考えたり関係機関との連携などを相談した。また、保護者 の方が通わせていた発達支援センターでの面談に立ち会う機会を作り、情報 共有を行った。
園児の保護者への支援およ び意見要望への対応	<ul style="list-style-type: none">・特に保護者からのご意見を頂くことがなかったため、面談等は行っていな い。

(2) 年間行事の振り返り

今年度も子ども主体で保護者と共に楽しめる行事作りを心掛けた。行事における遊びのゾーンは、日頃の子
どもたちの興味、関心に合わせて作ることで、「行事のためのゾーン」ではなく、「日々の生活を活かしたゾー
ン」作りが出来ていたのではないかと思う。それによって、行事に参加する子どもたちに不安定になる子がほ
とんど見られず、いつも通りの笑顔を見せてくれる子がとても多かったように感じる。

保護者の方のアンケートでも「ハイハイの子から虹クラスの子まで楽しめる内容を考えて下さって、子ども
の保護者も楽しい時間を過ごすことが出来た」「みんな笑顔でとても素敵な会でした」「一緒に参加出来てとて
も楽しかった」など、好意的な意見を多数いただくことが出来た。また、毎回制作するスライドショーでも、
「日々の様子がたくさん見られてよかった」「自分の子以外のお友達の成長が見られるのも楽しみです」とい
った意見が多く、映像を使って子どもたちの様子を伝えることの効果が非常に大きいと感じる。

保育者間でも、毎回行事についての話し合いを行っているが、行事に対する考え方が共有出来ているよう
に思う。「行事で何をやるのか」ではなく「今子どもたちが楽しんでいることは何か」「保護者の方に知ってら
いたい姿とは何か」という視点が持てるようになってきている。

今後も、保育園と保護者の中で、子どもの育ちを共有する場でありたいと思う。

(3) 給食・食育運営状況

・2階のわくわく組での子どもたちの日々の食事が、落ち着きがなく、ゆったりと食べられていないのではと
いう保育者からの声が多く上がっていた。昨年度より、一斉の食事ではなく、一人一人に合わせた食事の提供
を心掛けてきた中で、個々にペースの違う食事に保育者が対応することがとても難しく、保育者の動きや声掛
けの多い時間となってしまう。

そこで、「少人数グループ」を作り、それぞれのグループにおける緩やかな担当制を導入した。それにより、
まず発達の違いから、戸外からの入室時間に差が出来、必然的に食べ始める時間も差が生じた。食べる場所
においては、1歳児は椅子に顔写真を貼り自分の座る場所を明確にし、更に少人数での食事となったことでとて

も関わりやすくなった。また、担当する保育者が基本的に固定されたことで、日々の様子を把握しやすくなり、一人一人に応じた援助が出来るようになってきた。

声掛けや動きが多いという課題に対しては、おかわりできるものはグループごとに小分けにして近くに置き、また、食事量も担当の保育士が付箋で記入しておくことで、大人同士の余計な動きや声掛けが少なくなり、落ち着いた雰囲気ですぐに食事が摂れるようになってきている。

少人数グループでの食事はにこにこ組でも取り入れている。まだまだ、時間での勤務者が多い保育園の中で、担当する保育者が十分に固定しきれていないところがあり、その日に応じた臨機応変な対応が必要なところは課題である。

・食育分科会や食育ワーキングチームの活動により、昨年度以上に食育活動が多く取り入れられている。特に、お米とぎからのおにぎりづくりは、2歳児の高月齢を中心として10月以降毎月取り入れている。実際に自分でお米をとぐことで、「お米」への興味、関心が高まり、その後のおにぎり作りからの食欲にも大きく反映されているようだ。その他にも、乾燥わかめをもどして触ってみたり、いわしを子どもの目の前でさばくといった実体験を大切に活動も取り入れることが出来た。

(4) 保健に関する実施結果

園児健康診断	5月16日と11月14日の2回実施
歯科検診	6月14日の1回実施
保健だより	毎月児童数配布
職員健康診断	年1回
職員検便	毎月、乳児担当、厨房担当実施
流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に手足口病に33名感染する ・2月にインフルエンザに15名感染する ・その他は、胃腸炎やRSウイルスなど季節ごとに感染する子どもは見られたが、大きく広がってしまうことはなかった
その他、保険に関する取組	10月21日、11月11日に2回に分けて普通救命救急講習受講 8月14日、15日と3月29日、30日に厨房設備の害虫駆除実施 希望する職員にインフルエンザの予防接種

(5) 安全対策

ア 防災対策

1. 避難訓練等実施状況

実施日	訓練内容	消防署立会	消防署届出	その他
4月17日(月)	地震・火災・消化	無	無	
5月15日(月)	地震・火災・消化	無	無	
6月16日(金)	地震・火災・消化	無	有	
7月14日(金)	地震・火災・消化	無	無	
7月26日(水)	地震・火災・消化・通報	無	有	

8月21日(月)	地震・火災・消化	無	無	
9月15日(金)	地震・火災・消化	無	無	
10月17日(火)	地震・火災・消化・通報	無	有	水消火器訓練
11月22日(月)	地震・火災・消化	無	無	
12月21日(木)	地震・火災・消化	無	無	
1月15日(月)	地震・火災・消化	無	無	
2月20日(火)	地震・火災・消化	無	無	
3月16日(木)	地震・火災・消化	無	無	

2. 非常災害備品の設置

避難用3人抱きキャリー、非常用トイレセット、防災紙芝居を購入する

3. 侵入者、不審者訓練

8月30日、9月29日に園内にて実施

不審者対応マニュアルの整備

4. 実施した環境整備の状況

・2階わくわく組の環境を見直し、「遊・食・寝」を独立して行える環境にする。それに伴い、遊びでは「静と動」のゾーンが分かれ、離れた場所になったことで、一人一人の遊びが邪魔されることなく、集中して遊べる環境となった。また、動のゾーンもスペースを広く取れたことで、大きく体を動かせる場所が確保され、それらが集中して遊ぶ姿にもつながっているようだ。

また、おやつや食事の時間であっても遊びの場がしっかり確保できていることで、一人一人のペースに合わせて食事の提供が出来るようになり、遊びから食事、そして午睡への動線が分かりやすくなったことで、子どもたちが主体的に行動できる環境になってきていると感じる。

(6) 地域との関わり

ア 子育て支援

- ・毎月第一日曜日に複数名の保育士で地域清掃に参加する。
- ・7月22日の自治会の夏祭り準備のお手伝いをする。当日も複数名の保育士で参加し交流を深める。
- ・水遊び、夕涼み会、ハロウィン、ウィンターフェスタの行事を開催するにあたり、地域に手紙を配布し、遊びや行事に複数名の地域の方に参加していただく。特にハロウィンでは、6組の参加があり、子どもたちの様子を温かく見守っていただく。

7. 危機管理

- ・毎月安全 WT によるヒヤリハットの分析（濃淡管理）を行った。リスクの高い事例に関しては、具体的な対策が取れているかどうか、不十分であった時は対策を取るところまで明確に行う。また、他園で起こった事故事例などを日々確認し、昼礼での注意喚起や研修での事例検討や自園での対応などを話し合う機会を作った。
- ・園内（玄関内外、玄関ホール、1 階、2 階、3 階の子どもが生活する全てのスペース）の壁などにあつた角を業者に依頼し、全てにクッション材を取り付ける。
- ・にこにこ組では、これまでパーテーションや棚によって遊びと生活のゾーンを分けていたが、探索活動が盛んな子どもたちは、パーテーションからすり抜けて自由に行き来する姿が見られていた。それによって、子どもが転倒したり、保育者の視界からはずれてしまうことも多々見られていた。また、3 階の月の部屋でもアルミの開き戸によって、子どもが怪我をしてしまうことがあり、ドアを撤去することにした。それらの代わりになるものとして、引き戸付きの棚を購入して設置する。それにより、にこにこ組では保育者が目を向けやすくなり、安心して生活できるようになった。また、月の部屋は 2 歳児の高月齢児が集中して活動する場として製作遊びや指先遊びなどを中心に取り入れている。
- ・2 階のわくわく組の部屋では運動ゾーンを明確にしたことで、体を動かして楽しめる場が出来た半面、遊びの中で転倒し床にぶつけて怪我をする子が見られた。その為、より安心して楽しめるよう厚手のマットを敷き詰め、転倒等によるけが防止につなげていく。

8. 職員研修(園内研修)

H29 年度 園内研修実績			
	主な研修内容	分類	参加人数
4 月 1 日	・入園式振り返り ・子どもが考える機会が最大限増えるような関わり方、環境とは ～工夫、活動、保育士側の心得、事例検討を通して～	発・保	20 名
4 月 22 日	・にこにこ会、わくわく会（環境整備の見直し） ・新保育所保育指針について ・子どもを信じる心 ・安全 WT（ヒヤリハット）、環境 WT より	発・保・危	24 名
5 月 27 日	・夕涼み会テーマについて ・安全 WT（熱中症、ヒヤリハット事例検討） ・ドキュメンテーションについて ・分科会報告（食育、研修）	発・食・危	19 名

6月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・けやの森研修報告 ・食物アレルギーについて ・遊びは学び（ドキュメンテーション） ・発達支援について ・にこにこ会、わくわく会、環境設定 	発・環・危・保	20名
6月24日	<p>【法人合同研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の事故について ・外部講師講演（川越市立ひかり児童園 浅沼先生） ・事例検討 	発・環・危・保	20名
7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・夕涼み会準備 ・モチベーションを保って保育をしていく為には ・発達障害児に対する関わり 	発・環	16名
9月2日	<p>【法人合同研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新保育所保育指針解説 ・人権について ・乳児保育担当者研修報告 ・マニュアル作成 	発・環・食・危	18名
9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・敏感期（子どもの興味、関心を読み取ろう） ・安全な環境作りの為に ・ハチの危険について ・食育WTより 	発・環・食・危	14名
10月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修報告（乳児保育研修、保育所の食事を考える、アタッチメントについて） ・ヒヤリハット分析 ・SIDSについて ・環境整備 	発・環・危・保	19名
11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・普通救命救急講習（AM） ・保育園の中で困っていること ・チーム保育について ・人権について 	環・危・発	19名
12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の社会的責任について ・子どもたちの生活する場の保障 ・にこにこ会、わくわく会 ・大掃除 	環・発・危	21名
1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画を考えよう ・保育者の人権を守るために 	発・保・虐	10名

2月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画を考えよう ・保育者の人権を守るために 	発・保・虐	19名
2月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画を考えよう ・保育者の人権を守るために ・事務連絡 	発・保・虐	21名
3月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の計画、準備 	発・保・環	

- ・全体会議（月案振り返り等）：毎月1回
- ・にこにこ会、わくわく会、にこわく会：毎月1回
- ・研修WT、安全WT、食育WT、環境WT：毎月1回

分類【発：子どもの発達(養護と教育)、発達支援 環：環境 保：保護者支援 危：危機管理、ヒヤリハット 食：食育
虐：虐待 感：感染症予防】

【振り返り、改善点】

・子どもたちを見る視点や関わり方に考え方の相違が見られていたので、保護者への発信を含めて「ドキュメンテーション」を導入する。導入にあたり、園内研修でもなぜ必要なのかなど、今保育園に求められていることは何かということを理解してもらえるように考える機会を作る。ドキュメンテーションを始めたことで、初めは作ることへの負担が大きく、作る為の時間も要してしまっていた。しかし、次第に作ることでの保護者からの反応が見られたり、子どもたちへの視点が定まってくるなど保育における効果が見られるようになった。また、ドキュメンテーションに伴って8月から取り入れているキッズリーに関しても、日々の写真での発信を皆で見返してみて、より子どもの発達を保護者と共有するための発信方法なども検討する機会を作る。新しく取り入れてきたことを日々の中で十分に振り返り切れずに過ごしてしまっている職員が多い中、園内研修にて振り返りの時間をじっくり作ることの大切さを感じた。そのような時間を作ることで、保護者だけでなく保育者間の理解も深まってきていると感じている。

・子どもの怪我が起きてしまった際に、緊急の園内研修を設け、自分たちのリスク管理を含めた安全に対する取り組みを振り返る時間を多く作った。話し合いの中では、今までの保育のやり方などを否定的に捉える意見も多く聞かれ、やや戸惑いを感じる保育士もいたようであるが、否定的な意見だけでなく今大切にしていること、子どもにとって本当に必要なことは何なのかなど、「子ども」を中心に話を進めることで同じ方向を向いて進んでいくことが出来たように感じる。

・今年度は、一方的に伝える研修だけでなく、皆で話し合いをしていく形の研修を多く取り入れた。やはり、自分の意見を積極的に伝えることのできる研修の方が、考え、感じることの多い研修になっているようだ。来年度も、そのような形態での研修を中心に進めていけると良いと思う。

9. 外部研修

H29年度 外部研修実績			
	研修内容	場所	参加者
6/2.3	けやの森学園 指導者養成講座	けやの森学園	渡邊・古城・大杉
6/10.11	エドゥカーレ全国読者交流会	清泉寮	渡邊
6月13日	給食施設研修会	ウェスタ川越	太田
6/19.20	BCP 作成研修	埼玉建産連研修センター	渡邊
7月4日	中堅職員研修会	ウェスタ川越	木村
7月5日	発達障害児の基本的理解と子どもたちの発達を支える	埼玉建産連研修センター	大淵
7月10日	中堅職員研修会	ウェスタ川越	大杉
7月27日	指導監査ガイドラインの理解と監事監査、内部監査研修	埼玉建産連研修センター	大杉
7月22日	子ども中心の保育の真諦	聖徳大学	松沢
7月28日	働きやすい環境セミナー	大崎ブライトコアホール	渡邊
7月31日	子どものよりよく生きたいを支える	所沢おおぞら特別支援学校	大淵
8月7日	改訂保育所保育指針セミナー	大崎ブライトコアホール	渡邊
8月14日	福祉職員キャリアパス研修	彩の国すこやかプラザ	小池
8月25日	保育所の食事を考える研修会	コルソホール	斎藤
9月4日	保育環境セミナー	TKP ガーデンシティ竹橋	渡邊
9月5日	科学的根拠に基づく子どもの食事の在り方	品川区総合区民会館	太田
9月20日	財務管理担当者研修	埼玉建産連研修センター	大杉

9/19.20	乳児保育担当者研修会	大崎ブライトコアホール	古城
9月27日	財務管理担当者研修	埼玉建産連研修センター	大杉
9/22.29	初任者キャリアパス研修	ウェスタ川越	佐藤
9月28日	乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達	ウェスタ川越	大淵、松沢
10月16日	発達障害ステップアップ研修	彩の国すこやかプラザ	大淵
10/23～26	GT 韓国保育園研修	韓国	渡邊
11月2日	公私合同認可保育所等職種別情報交換会 (食事)	大井総合支所災害対策室	斎藤
11月2日	公私合同認可保育所等職種別情報交換会 (保育)	たんぼぼ保育園 かすが保育園	古城
11/3.4	自然体験活動指導者養成講座	けやの森学園	小池
11月8日	公私合同認可保育所等職種別情報交換会 (保険)	大井総合支所災害対策室	伊勢
11月8日	改訂保育所保育指針について解説、改訂ポイントと実践	こどもと福祉の未来館	古城、大杉
11月10日	GT 関東研修大会	新宿こだま保育園	斎藤
12/19～21	主任保育士研修会	大崎ブライトコアホール	大杉
12/22.26	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 (マネジメント)	日本社会事業大学	古城
1/4.5	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 (幼児教育)	日本社会事業大学	木村
1月13日	第三者評価の視点から見る今後の保育園運営を考える	さいたま共済会館	渡邊
1月15日	社会福祉援助技術ステップアップ研修	彩の国すこやかプラザ	渡邊
1月16日	乳幼児の育ちを見守り、親の思いに寄り添うために	上福岡西公民館	渡邊
1/31.2/3	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 (乳児保育)	秋草学園短期大学 日本社会事業大学	松沢
2/6.9	埼玉県保育士等キャリアアップ研修 (乳児保育)	秋草学園短期大学	安里

2/6.9	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（乳児保育）	秋草学園短期大学	尼崎
2/13.16	埼玉県保育士等キャリアアップ研修（幼児教育）	日本社会事業大学	大湊
2月28日	乳幼児の感染症、アレルギー対応 事故防止研修	ウェスタ川越	渡邊
3月5日	・保護者とのコミュニケーション、相談への対応 ・気になる子ども・発達障害の理解と対応	ウェスタ川越	尼崎
3月8日	幼保連携型認定こども園こどものもり見学	こどものもり	松沢

【振り返り、改善点】

・今年度は、積極的に多くの職員に研修の場を設けられたと感じる。方法としても、研修内容を職員に提示し、極力行きたいと自ら名乗り出た職員を優先していってもらおうようにした。その結果、やや偏りが出てしまった印象もある。しかし、常勤以外は子育てをしながらの就労である為、なかなか外部の研修に行けないのが現状であり、課題でもある。来年度に向けては、主体的な学びを保障するとともに、近い場所であればこちらから働きかけることで、時間で就労している職員にも外部研修にて学ぶ機会を作り、保育意欲につながれたらと思う。

・外部研修での学びをどのように現場の保育の中で共有し、活かしていくかということも課題の一つである。今年は、保育所保育指針に改定に伴った研修も多く、数名の保育士が参加している。指針の改定に関しては、園内研修にて数回にわたり研修を取り入れる中で、外部研修にて聞いてきたことを大いに繁栄させることが出来た。なかなか外部研修に参加できない職員でも、このように園内研修にて再度学ぶ機会を作ることで、参加した職員の理解を深めると同時に、職員全体で共有することへつながっていると感じる。ただ、聴いてきたことを報告するだけでなく、研修での学びの視点を明確に持ち、現場で生かすために取れ入れられることを一緒に考えられるようにしていかなければならないと感じる。

・外部研修に参加して、園で行っていることが保育全体で言われていることであることや、また、他園に比べて一つ一つ真摯にとりれているということを感じた職員もいたようだ。つい、園の中にいると狭い世界の中で目の前のことにいっぱいになってしまいがちではあるが、少しでも外の世界に目を向けることによって自分たちの保育の確認にもなっているようだ。そのような視点からしても、今後も職員のコンディションを見ながら、外部の研修にはより多く参加してもらうことに大きな意義があると感じる。

10. 苦情解決のうち報告すべき事項

- ・特に苦情はありませんでした。

平成29年度 鶴ヶ岡すまいる保育園 事業報告書

1. 平成29年度 総括

平成29年度は、法人内の人事異動により姉妹園より主任保育士、副主任保育士、保育士の異動があり、新たな体制でスタート、主任保育士が保育に関わり、事務担当者が事務を行う体制を整えました。

保護者の方とのコミュニケーションについて、スマホアプリを利用した情報発信や写真提供を行いました。日頃より交流を深めたことで、初年度以上に保護者の方との関係は温かいものになりました。

子育て支援センターの活動が活発化し、利用者が子育てサロンを立ち上げたり、園行事へ参加する等、豊かな展開が見られました。また、一時預かり事業が本格化し、緊急預りなど、ニーズに応えることが出来ました。

子どもたちの発達を促す環境設定の一環として、園庭に畑を設置し、子どもたちとともに植物の栽培を行いました。また、3歳未満児も利用しやすいよう築山を改造しました。室内環境としては、国際モンテッソーリ協会のディプロマを取得している職員による環境指導により、モンテッソーリの教具を導入し、子どもたちの発達の敏感期を意識した環境を設定しました。

園外活動として、大井まつりへ引き続き参加したほか、地域の方が焼いも大会や書道ボランティア等、保育支援をしていただいたり、高齢者施設との交流や園庭開放を行いました。年長児を中心に、地域のお米屋さんや新聞屋さん、車の整備やスーパー等を訪問、社会との関わりを増やすとともに、ハロウィンでは今年もケーブルテレビの取材がありました。また、日本保育学会でのポスター発表を行ったり、学識経験者との交流を深めることが出来ました。

2. 児童利用状況

月別利用児童受託状況（人）

グループ	年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
夢	0歳児	3	5	6	7	8	9	9	9	9	9	9	9	92
華	1歳児	20	23	23	22	23	24	23	24	24	24	24	24	278
虹	2歳児	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	217
月	3歳児	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14	14	173
星	4歳児	12	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	101
宙	5歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
合計	全園児	86	87	87	87	89	90	89	90	90	90	90	90	1065

3. 保育園開所時間

		保育標準時間	保育短時間	備考
早朝保育	7:00～8:00	最大 11 時間	有 料	
通常保育	8:00～16:00		最大 8 時間	
夕方保育	16:00～18:00		有 料	
延長保育	18:00～19:00	有 料		土曜日は無し

4. 職員

3月1日時点での在籍内訳

常勤職員	1 2	保育士	1 0	看護師	0	栄養士	2	事務	1 人
パート職員	2 0	保育士	1 4	看護師	1	栄養士	0	事務	1 人
調理員	1	嘱託医	2						

5. 運営報告

(2) 開催した施設内会議

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会議	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
わくわく会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
にこにこ会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(3) 各種ワーキングチームを設置し、職員主体での運営

研修 WT	職員の資質向上に向けて組織的、かつ体系的な研修計画に基づいて進める
安全 WT	園内外の環境整備および保全、安全・防災に関する意識の強化、子どもと保護者への情報発信と学び合いに務める
食育 WT	健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培えるよう、食育計画の作成や食育環境、栄養管理などに取り組む
給食委員会	厨房担当者と保育者の連携、保育の中の食育について認識を深める。
人権委員会	

6. 保育・処遇

(1) 保育・保護者面接および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	<ul style="list-style-type: none">・初年度2年目ということで、より保育理念や保育目標などを意識し、子ども中心の保育とは何かを職員全体で考える中で、それに伴った環境作りを心掛けた。・保護者との信頼関係を築くにあたり、日常のコミュニケーションを大切にしました。保育の中にも積極的に入り、子どもの様子を身近に伝えていくことから信頼関係の構築に努めた。
保護者面談および発達相談	<ul style="list-style-type: none">・加配対応が必要なお子様が3名おり、保護者の方との面談や人間関係の構築を心がけた。
園児の保護者への支援および意見要望への対応	<ul style="list-style-type: none">・公立園は大人が主導の一斉保育を行っており、子ども主体の保育への切り替えの過程で、当初、保護者の方から戸惑いや要望が多く出された。行政と連携し、一つ一つ丁寧に対応をしていき、子どもたちの生き生きとする姿を実感して頂けるようになった後半より、保護者の方も安心頂けるようになった。

(2) 年間行事の振り返り

保護者との関係性が構築できたことで2年目は活動の幅を広げることができた。年間の行事は昨年度同様に日常の延長であることを保護者に写真等で伝えながら、保育の理解を深めることができ、さらに公共機関を利用しての遠足や園庭での畑活動、地域の方や保護者と一緒に焼きも会をするなど、今までになかった活動を多く取り入れることができた。

(4) 給食・食育運営状況

- ・個々の発達や生活リズムなどに合わせて和やかに食事ができるよう、個々の気持ちを尊重した関わりを心掛ける。それにより、セミバイキング方式により、一人ひとりに合ったペース、量の食事が摂れるようになってきている。

- ・保育士と栄養士との連携が取りやすいように、基本的に週1回（月曜日）に保育士が厨房に入り調理の補助を行うようにする。また、栄養士も意識的に子どもの食事の様子を知る機会を作ったり、一緒に食事を食べるなど、お互いに身近な存在となれるよう工夫した。それにより、毎月発行している「食育だより」に子どもとの関わりや子どもと楽しんでいる食育活動などの様子が載せられるようになった。

- ・食育会議により、厨房との連携を図ることができた。

(5) 保健に関する実施結果

園児健康診断	年2回実施(5月24日・11月8日)
歯科検診	年1回実施(6月28日)
保健だより	毎月児童数配
職員健康診断	年1回
職員検便	毎月、0歳児担当、厨房担当実施
流行した感染症	ヘルパンギーナ、手足口病、胃腸炎、インフルエンザ等の、感染症に罹る子もいたが、大流行はなかった。
救急対応	骨折事例
その他、保険に関する取組	10月21日 普通救命救急講習受講 8月12日、14日、15日と3月29日、30日に厨房設備の害虫駆除実施 希望する職員にインフルエンザの予防接種

(6) 安全対策

ア 防災対策

1) 避難訓練等実施状況

実施日	訓練内容	消防署立会	消防署届出	その他
4月17日(月)	避難・消化	無	無	
5月15日(月)	避難・消化	無	無	
6月15日(木)	避難・消化	有(大室防災立ち合い)	有	水消火器訓練
7月17日(火)	避難・消化	無	無	
8月7日(月)	避難・消化	無	無	
8月23日(水)	避難・消化	無	無	
9月15日(金)	避難・消化	無	無	
10月16日(月)	避難・消化	有(大室防災立ち合い)	有	水消火器訓練
11月15日(水)	避難・消化	無	無	
12月15日(金)	避難・消化	無	無	
1月15日(月)	避難・消化	無	無	
2月15日(木)	避難・消化	無	無	
3月15日(木)	避難・消化	無	無	

2) 非常災害備品の設置

- ・非常食買い入れ、非常用釜の購入

3) 侵入者、不審者訓練

- 12月14日に園内に不審者対応訓練を行う。

4) 実施した環境整備の状況

- ・いのちのリストによる日々の環境整備（安全クッションの取り付けなど）
- ・すくすくシート、どきどきシートによる各クラスの環境整備（静と動、こどもの動線の整備、遊具作りなど）
- ・保護者の方より古タイヤを提供いただき、それを築山に埋め、より子どもたちの発達が促せるよう改修を行った。

5) 地域との関わり

- ・ハロウィン、ウィンターフェスタ、焼いもの行事を開催するにあたり、地域に手紙を配布し、各行事に複数名の地域の方の参加がありました。特にハロウィンでは、近隣の高齢者の施設と交流が図られ、ケーブルテレビなどの取材がありました。また、近隣に住む書道の師範を招いて年長児を対象に書道教室を行うなど地域との関わりを広げた。

7. 危機管理

- ・毎月安全 WT によるヒヤリハットの分析（濃淡管理）を行った。リスクの高い事例に関しては、具体的な対策が取れているかどうか、不十分であった時は対策を取るところまで明確に行う。また、他園で起こった事故事例などを日々確認し、昼礼での注意喚起や研修での事例検討や自園での対応などを話し合う機会を作った。
- ・玄関のオートロック機能を実用化し、日中（9：30～15：00）まではインターホンによる対応とする。

8. 研修実績

	月	内部研修内容	分類	参加人数
1	4月	・命のリストについて ・保育所保育指針について ・保育士としての能力開発「あり方とやり方」	危・発 他	30名
2	5月	・外部研修報告 ・室内環境整備 ・熱中症、感染症、プールについて ・各分科会報告など（食育・研修・絵本）	他・危 感・食	20名
3	6月	・プールの緊急時対応シミュレーション ・事例検討 ・臨床心理士に学ぶ（外部講師） ・学習指導要領の返還について（外部講師）	危・発 保・他	68名 (三園合同) 27名
4	7月	・園内環境整備 ・外部研修報告 ・よさこい練習 ・虫刺され ・保育内容の見直し ・絵本貸し出しについて ・エビペンについて ・避難訓練について	保・危 遊・他 食	25名

5	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・新保育指針解説 ・人権について ・外部研修報告 ・モンテッソーリメソッド 	<ul style="list-style-type: none"> ・敏感期 ・各分科会より報告 ・キッズリー、るくみーについて ・ふれあい遊び会決定事項報告 	保・発 他	74名 (三園合同) 25名
6	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通救命救急講習 ・竜巻について ・外部研修報告 ・ハロウィンについて報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインターフェスタについて ・保育内容の見直し ・個人情報について 	危・発 他	24名
7	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインターフェスタ準備 ・保育内容の見直し ・おう吐処理、感染症、SIDS、虐待、危険管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修報告 	保・危 虐・感 他	22名
8	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待、人権、分科会について ・ウインターフェスタについて 		虐・発 他	16名
9	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の見直し ・虐待について ・アレルギー、ヘルメット、命のリスト、肘内障について ・各分科会より報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画 ・外部研修報告 ・懇談会について 	保・虐 危・他 食	21名
10	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則について ・きらきらシートについて ・すくすくシート、のびのびシートについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な計画について ・ポートフォリオについて 	保・他	59名 (三園合同) 27名
11	3月				

	月	外部研修内容	内容	場所
1	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス推進者養成 ・チームリーダーキャリアキャンパス①② ・スーパーバイザー(スーパービジョン実践者)養成① ・運動会実技研修会 2017 ・臥竜塾年間講座「文字・数・科学」 ・「どうせ無理」を「だったらこうしてみたら」にする方法 	他 他 他 遊 遊 保	埼玉健康産連研修センター 彩の国すこやかプラザ 彩の国すこやかプラザ 産業文化センター 新宿せいが保育園 行田教育文化センター
2	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 ・スーパーバイザー(スーパービジョン実践者)養成②③④⑤ ・中堅職員キャリアパス①② 	他 他 他 遊	彩の国すこやかプラザ 彩の国すこやかプラザ 彩の国すこやかプラザ けやの森

		<ul style="list-style-type: none"> ・けやの森自然塾 ・フレネ学校視察研修報告会 ・保育教諭養成課程研究会 ・エドゥカーレ交流会 ・給食施設研修会 ・認定こども園トップセミナー ・臥竜塾「科学」 	保 他 保 食 他 遊	狭山市産業労働センター 國學院大學 清泉庵 朝霞市コミュニティセンター TKP ガーデンシティ竹橋 新宿せいが保育園
3	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・見守る保育環境セミナー 	保	新宿こだま保育園他
4	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・第43回幼児造形教育研究会夏の研修大会 ・エグゼクティブセミナー ・みどりいっぱい芝生講座 ・発達支援サポーター養成研修 	遊 保・ 他 他 発	十文字学園女子大学 東京品川インターシティホール ウエスタ川越 ウエスタ川越他
5	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパービジョン基礎研修 ・民間社会福祉施設永年勤務職員国内視察研修事業実施要領 ・乳児保育担当者研修会(経験者向け)東京開催 ・男性保育士の役割 ・臥竜塾年間講座「文字・数・科学」 ・アタッチメントと心の発達 	他 他 発 他 遊 発	埼玉健産研修センター 京都府・滋賀県 大崎ブライトコア 埼玉会館 新宿せいが保育園 ウエスタ川越
6	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育部会情報交換会 ・けやの森研修 自然塾 ・調理部会情報交換会 ・臥竜塾年間講座「科学」 ・保育部会情報交換会 ・埼玉県西部地区保育協議会研修会 ・発達支援サポーター育成研修 ・主任保育士研修会 ・新宿いるま保育園職員合同研修 ・GT 関東研修大会 ・お茶の水大学こども園スペシャル研修会 	保 遊 食 遊 保 保 発 他 保 保 保	たんぼぼ保育園他 けやの森 大井総合支所 新宿せいが保育園 大井総合支所 子どもと福祉の未来館 発達障害総合支援センター 大崎ブライトコア 新宿いるま保育園 佼成育子園 お茶の水大学
7	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの保育のあり方 ・平成29年度埼玉県保育士等キャリアアップ研修〈マネジメント〉 ・倉橋惣三の保育論から新3法令の現場での実践 	保 他 保	滝野川会館 日本社会事業大学 滝野川会館
8	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県保育士会特別研修会 ・臥竜塾「数」 ・保育の質の向上 	他 遊 保	大宮ソニックシティ 新宿せいが保育園 上福岡西公民館ホール

		・保育士等キャリアアップ幼児教育 ・新宿いるま保育園見学	保 保	日本社会事業大学 新宿いるま保育園
9	2月	・保育士等キャリアアップ研修幼児教育 ・乳幼児の感染症、アレルギーへの対応 ・保育士等キャリアアップ乳児保育 ・保育士等マネジメント研修	保 感 保 他	日本社会事業大学 ウエスタ川越 秋草学園 大崎ブライトコアホール
10	3月	・保護者とのコミュニケーション、相談への対応 ・発達障害の理解と対応	保 発	ウエスタ川越

研修内容 【危：危機管理、ヒヤリハット】【発：子どもの発達(養護、教育、発達支援)】【食：食育】
【保：保護者支援】【感：感染予防】【遊：遊び、手遊び、わらべ歌等】【他：その他】

9. 苦情解決のうち報告すべき事項

・ご意見 BOX や口頭、連絡帳などで寄せられた全ての意見、要望、苦情については、原則「苦情対応体制」に従い、掲示などでお知らせをし解決を行いました。